

# 主日礼拝

2025 年 10 月 12 日  
午前 10 時 30 分

## 前奏

参集 (報告・紹介・予定)

## 招詞

いと高き神のもとに身を寄せて隠れ  
 全能の神の陰に宿る人よ  
 主に申し上げよ  
 「わたしの避けどころ、皆  
 わたしの神、依り頼む方」と。  
 神はあなたを救い出してくださる  
 仕掛けられた罠から、陥れる言葉から。  
 神は羽をもってあなたを覆い  
 翼の下にかばってくださる。  
 神のまことは大盾、小盾。 (詩編 91:1~4)

## 頌栄 26「グロリア」



グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に  
 グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

## 日本聖公会神戸教区、主教按手式・就任式式文より

- 司式者：主よ、主の慈しみを示し
- 会衆：主の救いをお与えください
- 司式者：主の仕え人に義をまとわせ
- 会衆：主の聖徒に喜び歌わせてください
- 司式者：主の民を救い
- 会衆：主の子らを祝福してください
- 司式者：主の平和を今の世に与え
- 会衆：地の果てまで、戦いをやめさせてください
- 司式者：主の道をあまねく地に知らせ
- 会衆：主の救いをすべての国に知らせてください
- 司式者：主よ、わたしたちのうちに清い心を造り
- 会衆：聖霊によって支えてください

## 賛美 10-3,5 「今こそ人みな」

Nun danket all und bringet Ehr  
詞：Paul Gerhardt, 1607-1676

NUN DANKET ALL  
曲：Johann Crüger, 1598-1662



3 世のひとすべてをめぐみしゆくし、  
 5 主こそはわがたて、生きるかぎり。  
 しんじつのへいわをやどらせたもう。  
 この世をさる日のたかきぞみ。

3 世の人すべてをめぐみ祝し、 5 主こそはわが盾、生きる限り。  
 真実の平和をやどらせたもう。 この世を去る日のたかき望み。

## 祈禱

## 献金

## 主の祈り

天にまします我らの父よ、  
 ねがわくは み名をあがめさせたまえ。  
 み国を来らせたまえ。  
 みこころの天になるごとく  
 地にもなさせたまえ。  
 我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
 我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、  
 我らの罪をもゆるしたまえ。  
 我らをこころみにあわせず、  
 悪より救い出したまえ。  
 国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの  
 なればなり。  
 アーメン。

## 賛美 32 「キリエ・エレイソン」



キリエ・エレイソン、キリエ・エレイソン、  
 主よ、あわれみ。主よ、あわれみ。  
 キリエ・エレイソン。  
 主よ、あわれみ。

キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン  
 主よ、あわれみを 主よ、あわれみを 主よ、あわれみを

# 聖書 マタイによる福音書 20:1~16

新約(新共同訳)P38

1「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。2主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。3また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、4『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。5それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。6五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、7彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。8夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。9そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。10最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。11それで、受け取ると、主人に不平を言った。12『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすると、は。』13主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。14自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。15自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』16このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

# 賛美 18 「心を高くあげよ！」

"Lift up your hearts!" we lift them, Lord, to Thee  
 詞：Henry M. Butler, 1833-1918

SURSUM CORDA  
 曲：Alfred M. Smith, 1879-1971

1「こころをたかくあげよ!」主のみこえにしたがい、た  
 2きりのようなうれいも、やみのようなおそれも、み  
 3主からうけたすべてを、ふたたび主にささげて、き  
 4おわりの日がきたなら、さばきのぎをみあげて、わ

だ主のみをみあげて、こころをたかくあげよう。  
 >なうしろになげすつ、こころをたかくあげよう。  
 >よき名をほめつ、こころをたかくあげよう。  
 >がちからのかぎり、こころをたかくあげよう。

- |  |   |
|--|---|
| 1 「こころを高くあげよ!」<br>主のみ声にしたがい、<br>ただ主のみを見あげて、<br>こころを高くあげよう。 | 3 主から受けたすべてを、<br>ふたたび主にささげて、<br>きよき名をほめつ、<br>こころを高くあげよう。  |
| 2 霧のようなうれいも、<br>やみのような恐れも、<br>みなうしろに投げすて、<br>こころを高くあげよう。   | 4 おわりの日がきたなら、<br>さばきの座を見あげて、<br>わがちからのかぎり、<br>こころを高くあげよう。 |

# 説教 「働くには遅くない」

# 賛美 414 「せかいの友と」

詞：山口徳夫, 1900-1995

TOKYO CONVENTION  
 曲：池宮英子, 1924-2003

1 せかいのともとともと手をつなげ  
 2 くにことばはことなれど  
 3 うちゅうひみつ さぐるとも  
 4 みちとまことと いのちなる

十字架のもとに 立つわれら、  
 > ときわの平和 なお渡し。  
 > 主イエスの道を すすみゆかん。  
 > 主イエスのいのち わかちゆかん。

かみのみくにを めあてとし  
 > 疲れいためる ひとびとに  
 > 主イエスの道を すすみゆかん。  
 > 主イエスのいのち わかちゆかん。

主イエスの道を すすみゆかん。  
 > 主イエスのいのち わかちゆかん。  
 > 主イエスのいのち わかちゆかん。  
 > 主イエスのいのち わかちゆかん。

- |  |  |
|--|--|
| 1 せかいの友と 手をつなぎ<br>十字架のもとに 立つわれら、<br>かみのみくにを めあてとし<br>主イエスの道を すすみゆかん。 | 3 宇宙の秘密 さぐるとも<br>ときわの平和 なお渡し。<br>疲れいためる ひとびとに<br>主イエスのいのち わかちゆかん。    |
| 2 くにことばは ことなれど<br>こころはおなじ 主のたまご。<br>くらき時代の のぞみなる<br>主イエスの真理 ひろめゆかん。  | 4 みちとまことと いのちなる<br>主イエスをつねに あおぎつ、<br>あいにとづく つぎの世を<br>ちからを合わせ きずきゆかん。 |

# 派遣

司式者 主は言われます。  
「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆 わたしがここにおります。  
わたしを遣わして下さい。

# 祝祷

# アーメン



## 後奏

司 式：岡田 知恵子  
説 教：向井 希夫牧師  
奏 楽：大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、座ったままで礼拝をお守り下さい。